



モスクワ日本人学校

しらかば

第9号

モスクワ日本人学校
一人一人が輝く学校
笑顔あふれる学校

児童生徒数 103名

(E-mail)

school@mosnichi.com

(URL)

<http://www.mosnichi.com>

広がれ！ 交流の輪

現地校交流3・4年生(11月26日)

『いっちゃんいい』

校長 石川 賢

寒さの季節になると決まって思い出す話があります。恩師の小学生時代のエピソードです。少し長くなりますが、紹介します。

私の描いた絵が学校の代表に選ばれ、郡市の展覧会に出品されることになりました。私は母親と一緒に意気揚々と展覧会場に向かいました。そこには、近隣の市町村から集められた作品が一堂に展示されていました。私の心の中は、誇らしさと晴れやかな思いであふれていました。

ところが、壁一面に貼られたたくさん作品の前に、その気持ちが急にしぼんでしまいました。同い年の子が描いたとは思えない精緻な描写、鮮やかで豊かな色づかいなど、どれも私の絵より数段上に見えたからです。凶らずも「井の中の蛙、大海を知らず」の意味を知らされた思いでした。「俺の絵だって」と強がってみても、一緒にいた母親も同じような思いをしているのではないかと思うと、何ともやり場のない寂しさを感じました。

しかし、母親の言葉は違っていました。「おまえのが、いっちゃんいい」
帰り道、私の手を引いて歩く母親のこの言葉が、私の心を温かく充たしてくれました。

半世紀以上経った今でも、すでに逝かれたお母様の思い出と共に、この時のやり取りがはつきりと蘇ってくると思います。そして、この言葉に何度も勇気付けられたと語ってくださいました。

人権週間に因み、「心の大掃除をしよう」と題し、「目は輝いていますか」「やさしくしていますか」「温かい言葉をかけていますか」と、子どもたちに問い掛けました。自身を振り返る節目を大切にしたいと思います。話し終えてから、紹介した心温まる母子の会話に思いを巡らせました。「いっちゃんいい」は、「あなたの言葉掛けは子どもの心を育んでいますか」と、私たちが大人に問い掛けています。